



暑中お見舞い
申し上げます

永井先生からのメッセージ No.12

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2023年8月 夏休み号

野毛山幼稚園



【どうする しつけ】 元小学校教諭 永井 裕
7月号の『朝ドラ』に続いて、8月号は『大河ドラマ』。

……ご覧になられていない方々、すみません。……

▶『どうする家康』。頼りなさも感じられるタイトルですが、『松本潤さん』演じる徳川家康は、「家臣の意見にも、しっかりと耳を傾ける人物」として描かれています。

「その人柄は、幼い頃の『しつけ』が大きく影響していたのでは？」。私には、そんなふうに思えます。

▶そこで、数回、『しつけ』をテーマにしたメッセージをお届けしてみようと思います。(今回は**戦国version**)



「親子・ぶつかり合いの時代」

【親】

▶子供のやろうとすることのほとんどは親から見ると**させたくないこと**である。



【子供】

▶親がやらせようとするのほとんどは子供から見ると**したくないこと**である。

例：『だめ』 VS 『買って』の合戦

「親に従うべきか、戦うべきか。それとも？」

【決断A】

「がまんする」

自分の要求を一切放棄
親の言うままに身を任す

- ★ほめてもらう ★株を上げる
- ★何かの時は親の責任にする

【決断B】

「買わせる」

親の愛を失いたくないが
自分の要求を強引に通す

- ★ダダをこねる ★泣きわめく
- ★自分に立てこもり、拒絶する

【決断C】 「新たなアイデア」

「そのかわりに」などの『交換条件』
「お正月に」などの『延期案』 etc.

どうする？

▶子どもは、親のアドバイスも聞きながら、「どうするか」自分で決める。

親は、わがままへの「しつけ」をしながらも、子どもが**一歩成長できるようにする。**

★こういう「しつけ」のおかげで、「家康」は人の話を大切にできるようになったのかも。

▶幼児期の後半頃からは、親が「上」から子どもへ教え込むよりも、

解決に向かって共に歩む『相棒』や『仲間』のような関係が効果的なのだそう。

★もちろん、「ダメなものは、ダメ!!」と、親が『かべ』になるべき時もあります。

- 「部屋の片づけ」「靴の脱ぎ方」。いろいろなことをほめ合える親子関係。
- 親が「悪い言葉」をつい使ってしまった時、「だめだよ」と子どもが言える関係。

★「ママ、だめだよ」「ママはいいの」。そういう時もありますが、子どもにもプライドというものがある……

★我が家(永井家)の数々の失敗を思い出していたら、こんな気持ちになってきました。

「しつけ」の中に、もっと「あったかさ」とか「楽しさ」があればよかったのかなあ。

【参考・引用『小学生になる前後』岡本夏木】

- ① 同じ種類のペットボトルを3本用意。
- ② 「A」はそのまま。「B」と「C」の2本は、下・1/3ほどを切り取る。(大人)
- ③ 「A」に「B」をかぶせて、テープでとめる。
- ④ 「B」に「C」をかぶせて、テープでとめる。 ※まっすぐになるように
- ⑤ 一番上の穴から、ビー玉を落とす。 ★一番下の「A」まで落ちたら金メダル。「B」なら銀メダル。「C」なら銅メダル。

【ビー玉落とし】



テープ

